

こころ つう あ
心が通じ合っていることが
ひび へいわぞうじゅう
「日々の平和創造」

子どものページ

いっば
一歩ゆずれば



こころ
心って
あたた
温かい
おも
思いやり

わあ
分け合って
こころ こころ
心は交流

話し合うのは「聞き合う」こと

暴力や戦争がなぜ悪いかというと、自分の主張や意見を強引に押し付けるからです。戦争なんてのは暴力的に自己主張を押し付けるのですから、争いになってお互いに「守る」「衛る」「防ぐ」ことが必要になってしまいます。ちょうど「平和」の反対ですね。お互いに一歩引けなくなってしまう。「自己主張」を押し付けなくていいようにするのはどうしたらいいのでしょうか？

それは簡単。「話し合う」と言うことは聞き合う「こと」と原則を知っていればいいのです。

聞いてもらえると心地いい

人の話を取っていつの間にか自分の話にしてしまう人がいますね。大人にも子どもにもいますよ。そういう人。人の会話に入り込んでまで、自分の話にしてしまう人もいます。そうされると、せっかく自分の話を聞いてもらえていて心地よかったのに、いつの間にか取られてしまうのですからがっかりするのです。自己主張ばかりでは心はつながりません。

でもね…なんて言って否定するのは

それからもう一つは、なんでも否定されてしまうと、話す気にもならなくなってしまうのです。だから「くだけかけ会」で

は「よかったね・よく来たね」と言う愛言葉を言おうと提唱しているのです。

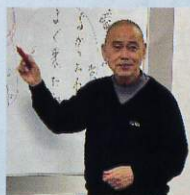
肯定されるとまずはホッとできますから、そこから出発できるのに、何でもかんでも否定から入ってくると気持ちが悪げちゃうので、心のつながりはプツリと切れてしまうのです。

日々の「平和創造」

じゃあ、自分の意見はどのように伝えたいのか？どうしたら心は通じ合えるのかということになりますが、じっくりゆっくり提案したほうが相手にも通じるのです。焦らずソフトな「提案型」がいいと思っています。時間がかかる時もあります。心を通じ合えることを待っているのもいい時間です。

心が通じ合うと言うことは「平和」の原則ですからとても大事なことです。まず家庭から「平和創り」をして下さい。お願いします。

和田重良（山の茂吉）



1948年 小田原市生まれ。
東京教育大学（現筑波大学）卒。
1978年、「くだけかけ会」をはじめ。神奈川県丹沢山中のくだけかけ生活舎において、多くの青少年たちと共同生活を実践してきたことを基盤に、「これからの子どもたちの心を豊かに育てるための提言」を発信し続けている。
中日新聞にコラム「SYD月刊『愛』」に掲載中。
「両手で生きる」の「悩める14歳」など著書多数。

おとなのページ